

＜今日の説教のポイント 使徒言行録1章6-11節＞

1 (6-7) 主イエスの昇天の出来事もそれが持つ意味を追うことが大事。

弟子たちが頓珍漢な質問をしたこの出来事は、イエス様が昇天される出来事は復活の出来事と同様、私たちの理解を超えた神様の出来事であり、弟子たちにとっては予告されても(3-5)理解できない出来事であったことを示しています。同時に、そういう時は神様にお委ねし、その出来事に神様が込められた意味が分かって来るのを待つことが大事なことを教えてくれる出来事であるとも言えます。意味が分かって来たらその恵みの大きさに驚く、そういう種類の出来事なのです。

2 (8) 語られることを聞き続ける中でその意味が分かる時が来る。

イエス様は、弟子たちが理解できなくても告げ続けられます(3-5 節に続いて)。その内容は、弟子たちが期待したような救いの完成の到来ではなく、むしろ弟子たちが働くべき時がやって来る、聖霊はそのために与えられるものなのだ、と告げられたのです。キリスト教の信仰の大事な内容が次々語られています。この時の弟子たちにとってはまだ意味不明なことですが、その後の経過を知っている今の私たちはしっかり受けとめなければならない大事な内容です。

3 (9-11) 主の昇天が持つ意味。主はいつも共にいて下さっている！

しかし、なぜイエス様が昇天されなければならなかったのでしょうか。弟子たちにとって主がおられなくなることは悲しみと不安しか生まれないような気がします。しかしそうではありません。「イエスは…彼らの目から見えなくなった」(9)は、エマオ途上の記事にも出てきます(ルカ福音書 24:31-35)。その時の弟子たちにとっては、それは復活の主がいつも傍にいて下さることを覚える経験であり、そのことを告げに行く力が与えられた出来事でした。それはまだペンテコステの出来事が起こる前の話です(ヨハネ福音書では、ペンテコステではなく、主の復活と共に弟子たちに聖霊が与えられ、宣教命令が与えられています。20:19-23)。主イエスが見えなくなることは悲しみと不安につながる出来事ではないのです。むしろ、見えなくても主イエスはいつも共にいて下さるということを感じて生きられるようになる恵みに誘う出来事なのです。主の昇天からペンテコステまでの10日間は、弟子たちにとっては聖霊無し空っぽの10日間でなく、主が共にいて下さることをより強く確信して歩む者となるために必要な10日間であったと考えるべきでしょ